



K.UNO NEWS LETTER

Vol. 16

ケイウノは全国に店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。
この広報通信では、毎月1回、ケイ・ウノのジュエリーやオーダーメイドに関する
さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けします。



オーダーメイドへのこだわりと、AI(人工知能)鑑定の 新しい技術でジュエリーの未来を見つめ続けたい

今回は4月19日にケイウノ銀座本店で行われた発表会のレポートをお届けします。当日のテーマは日本初AI鑑定したダイヤモンドの発売と、ケイ・ウノのオリジナルカットデザインダイヤモンドを使った婚約指輪の2つ。

発表会前半、AI鑑定のダイヤモンドについてお話いただいたのは株式会社APの伊藤拓也さん。昨年サリネプロファイル導入の発表会でもお世話になったサリネテクノロジー社の日本総代理店マネージャーを務めておいてです。ダイヤモンド鑑定の具体的な方法など、ふだんあまり聞くことのできないお話を伺うことができました。

そして後半は、ケイ・ウノのオリジナルカットを活かした新しい婚約指輪について。ダイヤモンド研磨のクラフトマンであり、オリジナルカット「アラ・ムンドゥス」の開発者でもある清水宗貴が説明をさせていただきました。

ダイヤモンド鑑定の 新たな潮流

昨年、日本のジュエリー小売り市場規模はそれまで2年続いた減少からプラス成長に転じ、2020年には国内宝飾品小売市場は1兆円を超えるという予測されています。そうした状況の中、結婚情報誌のトレンド調査によると婚約指輪の材質について回答者の94・5%が「ダイヤモンドがいい」と答えているとか。ダイヤモンドの人気は根強いものがあるようです。

さて、そのダイヤモンドの品質は「4C」と呼ばれるカラット(重量)、カット(研磨)、クラリティ(透明度)そしてカラー(色)で評価されています。

「4Cのうち、カラットに関しては電子秤を使って人間が測定しており、カットのグレーディング(評価)は20年ほど前から自動測定器が世界標準として使用されています。ただ、クラリティとカラーに関しては、これまでずっと人間の鑑定士が自らの眼で見てグレードを判定してきました。しかし、人間のグレードはさまざまな条件によって容易にブレしてしまうのです」と伊藤さん。

クラリティとカラーのグレーディングは「官能グレーディング」といい、ベテランの鑑定士でも気分や体調によって左右されることがあるのだとか。例えば夕方日が暮れた時、「一定の暗さ」になっただけで電気がつくと

します。では、一定の暗さとはどんなのか。暗さをグラデーションでスライドさせていくと、人間は体調や気分によってブレが生じてしまうことも。そしてこのブレは個人間の違いだけでなく、国や地域によっても生じることがあるのだとか…。

ダイヤモンドのグレーディングも同様のため、人間のあいまいなボーダーラインに頼ることのない、世界標準となる安定した客観的な鑑定が求められているのが現状なのだそうです。



AIによるダイヤモンド鑑定の説明をする伊藤さん

世界初のAI鑑定システムを 日本初で導入

こうして安定した鑑定結果を得るために世界各国が研究を競う中、もともとダイヤモンドのカットグレード鑑定に関して世界標準となるシステムを有するサリネ・テクノロジー社(以下、サリネ社)が開発したのが、カラーとクラリティという鑑定分野にAIを搭載したシステム。

因みにサリネ社があるイスラエルは、世界のシリコンバレーとも呼ばれるテクノロジー大国。世界の最先端技術がイスラエル

で開発されていてアップル社のスマートフォンに採用された顔認証システムもイスラエルにある会社が開発した技術を採用したのだとか。そんなイスラエルに於いてダイヤモンドに特化して技術開発に取り組んでいるのがサリネ社というわけです。今回の開発に際し、開発段階ですでに15000点以上のダイヤモンド鑑定結果を保有していた同社。さらに日々の結果がプラスされていくデータ

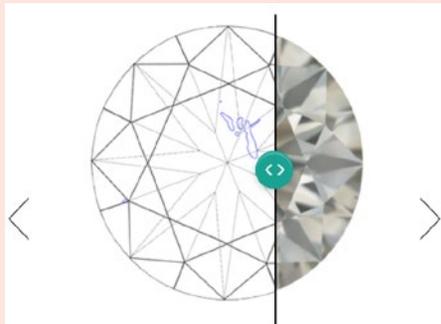
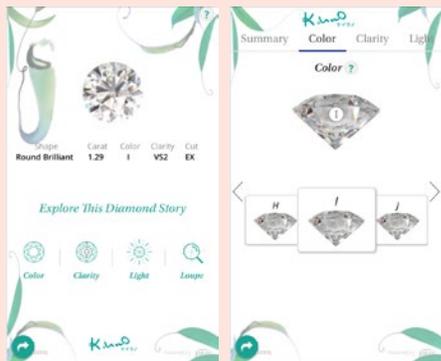
ベースは膨大です。

ケイ・ウノは世界初となるこのシステムを日本で初めて導入。今後ケイ・ウノで販売するAI鑑定したダイヤモンドには、サリネ社によるデジタル鑑定書「サリネプロファイル」と紙の鑑定書「サリネレポート」が発行されます。日本の歴史ある宝石鑑定機関「中央宝石研究所」が発行する鑑定

KINDO 鑑定		SARINE PROFILE REPORT ID SBEIF8KZAO SHAPE: ROUND BRILLIANT		SARINE PROFILE REPORT ID SBEIF8KZAO ISSUE DATE: FEB 27, 2023	
DIAMOND GRADING		ADDITIONAL GRADING RESULTS		COMMENTS	
CAAT WEIGHT	1.290	POLISH	EX		
COLOR GRADE	I	SYMMETRY	EX		
CLARITY GRADE	VSI2	FLUORESCENCE	None		
CUT GRADE	8/9	INSCRIPTION	2385039P		
		MEASUREMENTS	6.42 6.43 3.97 mm		
CLARITY		LIGHT PERFORMANCE RESULTS		COLOR	

紙の鑑定書「サリネエーアイグレーディングレポート

安心いただける情報をもっと具体的な形でお客様に



バーをスライドすると内包物の位置が確認できる

今回のシステムについて、「AIを使ったシステムを導入することで最終的な判断段階で人間がぶれがちな要因をすべて排除して判断し安定して公正なグレードを提供することができるとはもちろんですが同時に大きなメリットとして考えていたのが、デジタルエクスペリエンスをお客様に提供できることだと思います」と伊藤さんは話されます。

これまで紙だけでご提供していたダイヤモンドに関する情報が、デジタルツールの使用によってより具体的に詳細にお届けできるようになったのです。

例えば、機能の一つであるバーをスライドしてダイヤモンドの内包物をご覧いただけるツールを使えば、さながらプロの鑑定士が目前にいるが如く内包物の位置や大きさを説明することが可能になります。それぞれのダイヤモンドがどのような内包物を有しているかはある意味ダイヤモンドの「個性」ともいえるでしょう。

ダイヤモンドは、婚約や結婚などお客様の人生において、大きな節目に用いられることが多いジュエリー。今回のシステムを使うことで、ダイヤモンドに対する信頼だけでなく、これまで伝えることが難しかったダイヤモンドの「個性」という魅力をプレゼンテーションできることは、ケイ・ウノにとっても大きな喜びです。

ものづくりへの熱い思いから始まったダイヤモンド研磨



工房での正装エプロンを着用した清水クラフトマン

伊藤さんに続き、登壇したのはケイ・ウノでダイヤモンド研磨を手がけるクラフトマンの清水です。今回発表する婚約指輪について職人目線でお話を、ということ工房での正装、エプロンをつけての登場となりました。

婚約指輪は「ステラ・エタニティ」「ステラ・ソリティア」「スピラ」「グラステラ」の4種類。前者2つは「クラドウス」という、ケイ・ウノオリジナルのダイヤモンドカットの特長を最大限に活かしたデザインとなっています。

ケイ・ウノがダイヤモンドの研磨を始めたのは2005年のこと。「オーダーメイドにこだわるには、石さえも自分たちでカットできなくては」という「真のものづくり」に対する思いからでした。しかし当時



2つのオリジナルカットを活かしたデザイン

の日本でダイヤモンドを自社研磨しているところはほとんどなく、研磨の方法も道具も情報もない中、ようやく山梨県にかつて研磨に携わっていたという方を見つけ出し、週2回ケイ・ウノ初の研磨職人である相庭が山梨に通うことから始まりました。

山梨での修行を終えた相庭はさらなる研磨技術の高みを目指しダイヤモンドの中心といわれるベルギーはアントワープへ。言葉も通じない異国の地での厳しい修行を経て、世界に通じる技術を取得し、帰国後も技術開発に勤しみました。

そして、昨年秋生み出したのが、前述の「クララステラ」と「テラ・ムンドウス」という2つのオリジナルカットを持つダイヤモンド。今回登壇した清水は「テラ・ムンドウス」を開発したクラフトマンです。

2人のクラフトマンが 生み出した星と宇宙

清水が開発した「テラ・ムンドゥス」は自然界における「螺旋（らせん）」がテーマ。「普遍的な美しさを追求している時にふと気づいたのが螺旋でした。松ぼっくりやひまわりの種に見ることが出来る螺旋の形は、台風の大気や銀河系の渦にも通じる自然界の法則性。そこからヒントを得て、ダイヤモンドの形に落とし込むことを研究したのです」。

螺旋を取り入れることに最初は苦労したという清水ですが、先に開発されたミッキーマウスのシルエットがダイヤモンドに浮かび上がる「スウィートリックダイヤモンド」を参考にプロポーシオンを完成。因みに名前のテラは地球、ムンドゥスは宇宙を意味するラテン語。広大な宇宙をダイヤモンドの中に閉じ込めたような深い広がりの特長です。

一方「クララステラ」は、清水とは別のクラフトマンが開発したものの。ラテン語で「澄んだ」「明るい」というクララースと星を意味するステラからなる名前が表す通り、中央にある大きな星とそれを囲む星たちがデザインされています。星たちは合わせて7つ。通常のブリリアンカットの約3倍にもあたる171面体が織りなす輝きが特長です。

この2つのデザインは、いずれも星や宇宙がテーマとなっているのですが、実は全くの偶然だったのだそう。



「テラ・ムンドゥス」(右)と「クララステラ」(左)。共に星や宇宙がテーマ

「お互い、アプローチがまったく違っていて。クララステラは最初から星をモチーフにして全面に押し出しているのですが、僕の場合は螺旋を追求していったら銀河や宇宙に行き着きました。デザインをしている最中はそういう話はしないで、できあがってみて驚きました。でも、何も言わなくても同じ想いがデザインになったことが嬉しくて。せっかくだから一緒に発表しよう」と、昨年の同時発表になりました」と清水は語ります。

より多くの方にジュエリーを
楽しんでいただけるように

近年、ダイヤモンドのカットは一般的なブリリアントカットだけでなく、各社がさまざまなポイントをつけてアピールするようになりました。ケイ・ウノではダイヤモンド自体をよりオーダーメイド感を強くしたものをつくっていきたく、これまで発表したオリジナルカット以外にさらに新たなカットを開発しています。ケイ・ウノは、お客様にさらなる感動と喜びを贈り続けるために、国内にいる約150名のクラフトマン達と共にものづくりをより進化させ、多くの方にジュエリーを楽しんでいただければと考えています。



発表会後に行われたダイヤモンド研磨体験の様子

5月の誕生石 「エメラルド」

スタイリッシュな音記号のブローチは、バイオニストの旦那さまに奥さまからのプレゼント。先端で澄んだきらめきを放つのは、5月の誕生石エメラルドです。小さなバイオリンの隣には、共にお好きだというワインに因んだグラス。お二人の仲のよさがハーモニーを奏でる特別なジュエリーに仕上げました。

